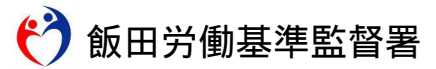


# 冬季は労働災害が多発します

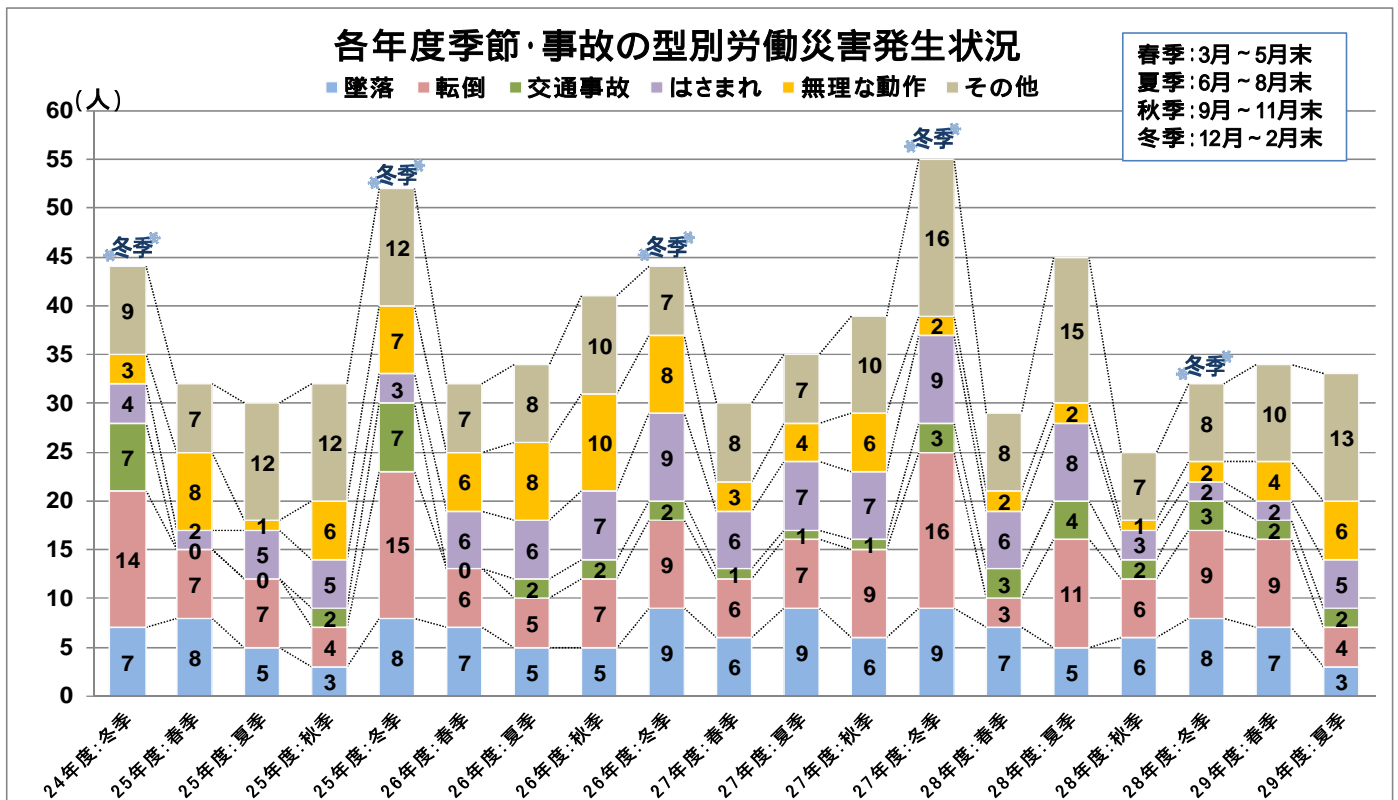
## 冬季労働災害防止対策等に取り組みましょう！



例年、冬季においては、凍結・積雪・寒冷等を要因とする転倒、墜落、交通事故等の災害を中心に労働災害が多発する傾向にあります。

実際に当署管内における休業4日以上労働災害による被災者数を、近年(平成24年度～平成29年度)の季節ごとに各年度平均で分析すると、春季(3月～5月末)で31.4人、夏季(6月～8月末)で35.4人、秋季(9月～11月末)で34.3人、冬季(12月～2月末)で45.4人となっており、冬季は他の季節と比べて、約10人増加している状況です。

このため、特に冬季は、凍結や積雪等他の季節と働く環境が変化することを踏まえて、労働災害防止を進めることが重要です。



- ▶ 冬季は転倒災害が他の季節と比べて、2倍以上発生しやすく、その原因としては、積雪・凍結のほか、靴や床面などの水分が乾きにくいこと、暗所が増加することなどがある。
- ▶ 交通事故については、降雪状況によりスリップ等のリスクが高くなるため、冬季は発生しやすい傾向にある。
- ▶ 転倒災害が多発している季節は、総じて他の事故の型にかかる労働災害も増加傾向にある。

まずは、安全衛生委員会などで、冬季における労働災害防止対策について話し合いましょう！



# 冬季における労働災害防止対策



## 基本的な災害防止対策

- (1) 安全衛生委員会等を活用して、冬季特有の災害防止対策を樹立する。
- (2) 必要な用具等の確保、設備の点検等をあらかじめ実施する。(安全衛生総点検等)
- (3) 労働者に冬季労働災害防止対策に関する安全衛生教育を実施する。
- (4) 労働者の注意力や転倒防止への意識を向上させるため、「転倒災害防止運動」等の活動を展開する。

## 通路、作業床等の凍結、積雪による転倒災害防止対策

- (1) 床面や通路等は、くぼみや段差がない、滑りにくい構造とする。
- (2) 床等の水たまりや氷は放置せず、その都度除去するとともに、水が溜まりやすい箇所には吸湿性のあるマットを敷く等の措置を講ずる。
- (3) 通路、作業面の除雪を行い、安全通路を確保する。
- (4) 履物は、滑りにくく、安定したものを着用させる。また、靴底がすり減っていないかを点検する。作業内容に応じて、スパイク靴等の滑りにくい履物を着用させる。  
通常の靴等に取り付ける「携帯用かんじき」の例
- (5) 階段には、滑り止めや手すりを設けるとともに、走らず、一段飛ばしを行わない。
- (6) 凍結の有無を確認してから次の動作に移る。凍結のおそれがある場所では、滑り等による転倒等を意識しながら、足の裏全体をつけて歩くようにし、むやみに走らない。
- (7) 服やズボンのポケットに手を入れたままの歩行を避ける。
- (8) 建物等の入口には、雪、水分を除去するためのマットやブラシ等を備え、凍結の要因となる水分を持ち込ませない措置を講ずる。



## その他の冬季災害防止対策（抜粋）

- (1) 高所作業時には、作業者に保護帽（墜落用のもの）を着用させ、高さが2 m以上の墜落危険箇所での作業では、手すりを設置するか、これが困難な場合には、親綱を設置し、安全帯を確実に着用させるなどの措置を講ずる。
- (2) 機械のトラブル（氷が詰まるなど）時に機械の完全停止措置を徹底する。
- (3) 狭い箇所などでは内燃機関を有する機械の使用を禁止し、また、火気使用場所の換気は十分に行う。
- (4) 落雪、つららの落下危険箇所や雪崩の危険箇所を特定し、事前の危険要因の除去や立入禁止措置を講ずる。
- (5) 労働時間や業務内容等について、冬季特有の事情に配慮して負担の軽減を図る。

## 交通労働災害防止対策

- (1) 冬用タイヤについては摩耗状態を点検し、降雪前に早めに装着しておく。
- (2) 無理のない走行計画により時間に余裕をもって運行させ、速度は控えめに、車間距離を十分に確保できるよう配慮する。
- (3) スリップ防止のため、急ハンドル、急ブレーキ、急発進は行わないなど、安全運転に関する教育を実施する。
- (4) 「交通労働災害防止のためのガイドライン」に基づく睡眠時間の確保や適正な労働時間等の管理等の走行管理を行う。



## ◆危険情報マップ（交通ヒヤリマップ）を作成・掲示しましょう。

皆さんは、事故や労働災害にならなくても「ヒヤッと」した、「ハッと」したということを一度や二度は経験されていると思います。

通勤および配送業務や送迎業務などの自動車等運転の際の交通事故を防ぐためには、このような「ヒヤリハット体験」をもとに、経路上における危険箇所の洗い出しを行い、その対策や注意すべき事項などを事前に確認しておくことが効果的です。

安全に自動車等運転を行うためにも「危険情報マップ（交通ヒヤリマップ）」を作成してみましょう。

【作成の手順】

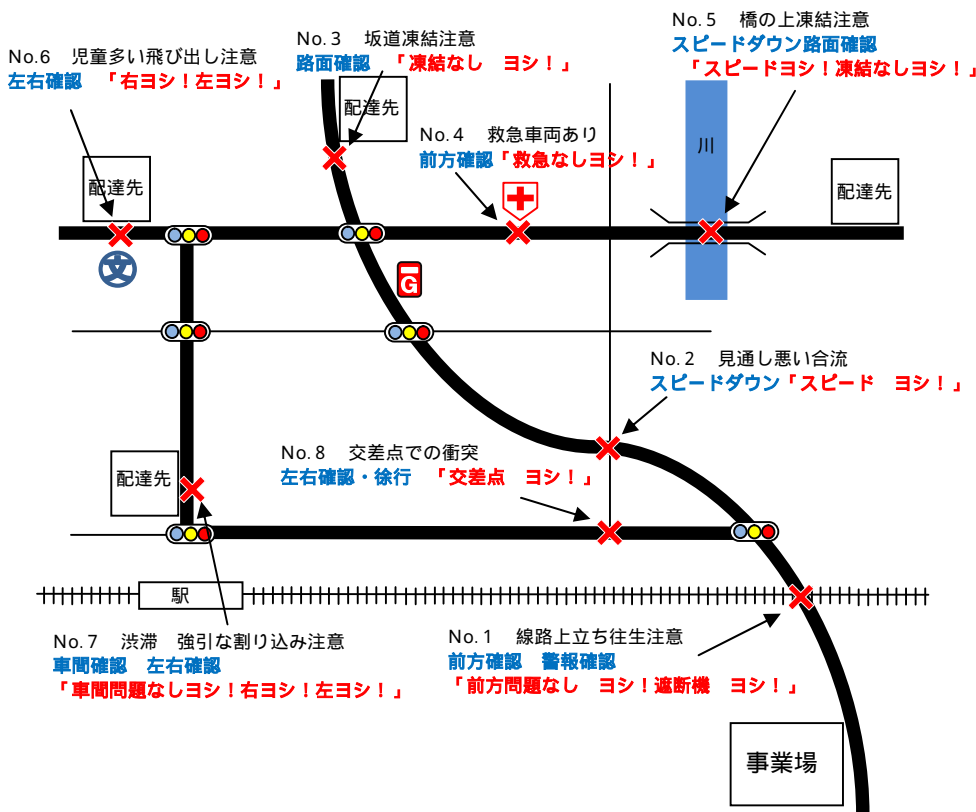
交通ヒヤリマップの用紙を全員に配布する。

運転経路を記入する。  
経路は太線で、脇道は細線で、信号などの記号も入れる。

危険（ヒヤリ）箇所を記入する。  
危険（ヒヤリ）箇所には順番に×印（No.）をつけて、その内容を簡単に記入する。

対策と確認事項を記入する。

### 交通ヒヤリマップ（例）



記号を入れてわかりやすく！

経路	
経路以外の道路	
信号	
線路（踏切）	
病院	
学校	
ガソリンスタンド	
橋（河川）	

道路地図や白地図などを利用する場合には、経路を見やすいように工夫する必要があります。また、記号などについては、一例ですので、交通事故防止上必要なものを適宜記入してください。

対策の実施に際しては、次項の冬季における労働災害防止のためのチェックリストをご活用ください⇒

# 冬季における労働災害防止のためのチェックリスト

この自主点検は、冬季労働災害防止のための主要な項目を挙げたものです。各事業場においては、厳しい冬を迎えるに当たり、施設や安全衛生活動等をもう一度見直し、改善すべきところは直ちに対策を講じましょう。

## 1 安全衛生活動 はい いいえ

安全衛生委員会等において、冬季労働災害防止対策について審議し、対策を検討、実施していますか		
経営首脳、安全スタッフ等による職場の安全衛生総点検を実施していますか		
労働者に冬季労働災害防止対策に関する安全衛生教育を実施していますか		
労働者の意識を向上させるため、「転倒災害防止運動」等の活動を展開していますか		

## 2 転倒災害の防止 はい いいえ

駐車場、通路、作業場所等の除排雪は十分ですか		
凍結危険場所は、滑り止めの設置や融雪剤散布などにより滑りにくい状態にしていますか		
安全に移動できるように十分な明るさを照明などで確保していますか		
労働者から転倒しそうな場所を聴き取り、危険マップ等を作成していますか		
転倒災害が発生しやすい場所等を標識・ステッカー等により周知していますか		
滑りにくく安定した靴を着用するとともに、定期的に点検していますか		
転倒を予防するための教育を行っていますか		
ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか		
ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか		

## 3 交通労働災害防止 はい いいえ

早めのタイヤ交換、車両点検を実施していますか		
時間に余裕を持った車両の運行計画を立てていますか		
当日の気象状況及び路面状況を把握し、点呼などにて周知していますか		
配達業務など巡回経路が決まっている場合、危険情報マップ等を作成し、周知していますか		
交通事故防止のための安全運転にかかる教育を実施していますか		

## 4 除雪作業による災害防止 はい いいえ

機械のトラブル（氷が詰まるなど）時に機械の完全停止を徹底していますか		
除雪作業の作業計画を立て、雪で埋まっている構造物などを明確にしていますか		
路肩などの危険箇所へ近接して作業する際、誘導員を配置したり目印を表示していますか		
人力での除雪を行うときは、無理のない姿勢かつ体力以上の物を持ち上げないようにしていますか		

## 5 屋根や斜面などの高所からの墜落防止 はい いいえ

滑りにくい靴、ヘルメット、安全帯を着用していますか		
手すり等の墜落防止設備、安全帯を使用できる設備はありますか		
事前に作業場所の確認を行い、開口部等を把握して事前に対策を行っていますか		

## 6 一酸化炭素中毒の防止 はい いいえ

狭い箇所などでは内燃機関を有する機械の使用を禁止していますか		
火気使用場所の換気は十分ですか		
一酸化炭素中毒の危険のある場所を立入禁止としていますか		

## 7 その他 はい いいえ

落雪、つららの落下危険箇所や雪崩の危険箇所を特定していますか		
火気使用場所付近の整理整頓を実施し、可燃物等を放置していませんか		
防寒着等の保温のための着衣等を機械等に巻き込まれないようしっかり着用していますか		
労働時間や業務内容等について、冬季特有の事情に配慮して決定していますか		

「はい」の項目はいくつありましたか？「いいえ」の項目は早急に改善しましょう！